

島根の地域医療

第75号

2021/9/15

SHIMANE
AKAHIGE
BANK



発行者 島根県健康福祉部
医療政策課医師確保対策室

今回の紙面

- ◆地域医療最前線 NO.80「島根県中山間地の病院から」《公立邑智病院院長 山口 清次》
 - ◆専攻医のページ「艱難、汝を玉にす」《県立中央病院専攻医 坂口 公太》
 - ◆看護師さんのページ NO.58「自分らしい生活を支えるために～
介護医療院の看護師として思うこと」
《奥出雲病院介護医療院 師長 高尾 奈津子》
- ◆島根県からのお知らせ ◆編集後記



地域医療 最前線

No.80

島根県中山間地の病院から 公立邑智病院院長 山口 清次



私は今春（2021年）4月から公立邑智病院院長を拝命しました。

以前、大学病院（島根大学病院）に長く勤めていたので、地方の公的病院の視点と比較しながら感じたことを書かせていただきます。

公立邑智病院は、日本海沿いにある島根県の主要都市や大病院から離れたところに位置し、大田市まで約40km、江津市まで45km、浜田市まで50km、大学病院のある出雲市まで75km、広島市内まで約80kmのところでは、設立母体である邑智郡3町の人口は約1万8千人で、中国山地の中の広い地域をカバーしています。

病床数は98床、常勤医は10名（総合診療・内科5名、外科、小児科、産婦人科、泌尿器科、および歯科各1名）で、この他に専門内科、整形外科、皮膚科、精神科、麻酔科、救急では大学病院などの非常勤医師の助けを借りています。

この地域の急性期医療、慢性期医療、および近隣の診療所からの紹介患者受け入れ、高次医療機関との連携、トリアージ機能を担っています。従って総合診療医が中心となっています。自分が大学病院で働いていた時には各専門領域のエキスパートがいて、何かあるとすぐに専門家に依存する癖がついていましたが、こちらで働いてみて、総合医の勉強量、知識の豊富さ、診療技術（外科手術も含めて）には驚かされています。

以前若い人たちは高度専門医療を目指す傾向がありました。しかし自分の専門分野の知識は豊富でも、実際の臨床現場で生かせないことも少なくありませんでした。そういった中で、広い領域の診療に対応できる医師の重要性が高まり、最近救急医（ER）、総合医、家庭医などの領域の人氣が高まっています。

話は変わりますが、昨今、医療資源の有効活用観点から、公的病院の統廃合が議論され現実味を帯びてきました。同じ地域に類似した機能を持つ公的病院があ

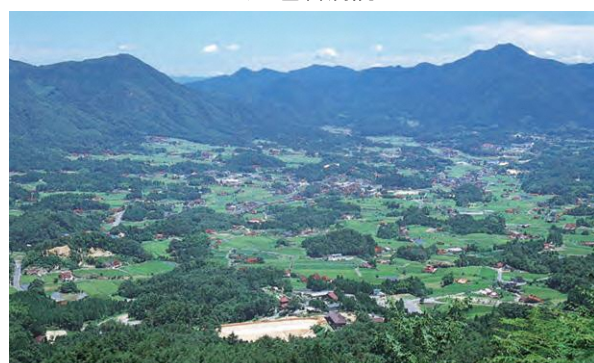
る場合、統廃合して無駄をなくすことも必要だと思います。一方人口が少なく都市部から離れた地域では、小規模病院であっても廃止すると、地域の崩壊につながることもあります。

しかし高齢者医療費の増大に加えてコロナ禍による経済的ダメージなどを考えると、安定的な地域医療提供体制を維持するためには、スタッフも補助金に依存しない自立意識も必要になってきました。地域の公的病院の存在意義として伊関友伸氏（城西大学教授）は以下の点を挙げておられます。①地域の健康を支え、地域の崩壊を防ぐ、②地域の雇用を支える、③地域づくりの中心（医療や介護の求心力）として機能する。

公立邑智病院は最近まで9年連続



公立邑智病院



公立邑智病院がある於保地盆地（初夏）

の黒字を達成し、島根県内の公的病院の中で健全な病院経営を維持していると評価されています。私は邑智病院に来てからまだ日が浅くこの要因を十分に説明できませんが、これまでの院長先生など病院幹部のリードのもとに職員全員が同じ方向を向き、一人ひとりが自分の働く病院をわが家のように考え、病院経営、職員の雇用の維持、地元の人たちへのサービス向上のために知恵を出し合っているように思います。小規模病院だからできることかもしれないませんが、一人ひとりの小さな向上意識が、病院全体では大きな力となっています。私はこうした一人ひとりの小さな向上意識をさらに大きな波にして、地域に貢献できる病院にしたいこうと思います。

専攻医のページ

艱難、汝を玉にす

島根県立中央病院 坂口 公太



「はじめに」

筆者は和歌山県出身、大学は愛知県、臨床研修は沖縄県、専門研修より島根県に着任した医師6年目の者

である。雲南市立病院総合診療プログラムに所属し、雲南市立病院（1年・総合診療）大曲診療所（6ヶ月・在宅診療）沖縄県立宮古病院（6ヶ月・救急／小児）現在は島根県立中央病院／弥栄診療所（総合診療）で研修させて頂いている。

沖縄県から島根県に移動し、患者さんや住民、医療従事者との対話から多くの事を学んでいる。現在「島根の地域医療」を語れる程十分に理解／実践出来ている訳ではないが、島根県の様々な医療機関において研修させて頂いた筆者だからこそ感じる島根の魅力や一現場の医師として考えている事が読者に伝われば幸いである。また、不足している部分も多く御指摘頂ければ幸いである。

「課題先進地」

高齢化に伴う医療費増加や人材不足、人口減少等「課題先進地」としての島根県が取り上げられる事がある。筆者も日々医療現場に従事していてこのような課題に遭遇する場面は多い。ただ、このような課題は複雑に物事が絡み合った上で結果として現在現れている。複雑な現状を理解する為には、各々の原点に遡り歴史的に紐解いて行くのが最善の方法である。政策には、過去の対応によって現在が規定される経路依存性（path dependence）がある事が知られており、医療においても過去の側面によって現在が規定されている側面がある為、今回経路

依存的に「課題先進地」である島根の魅力考えた。

「島根県青原村の歴史と互助が強み」

筆者は、島根の地域医療における魅力は「互助」にあると考える。その背景について、特に「国民健康保険法」における島根の経路依存的観点から記載する。これは、前述した様々な医療機関での患者さんや住民、医療従事者との対話から学んだ事が多い¹⁾。

健康保険法が、都市部の労働者を対象にしていたのに対して、1938年に公布された国民健康保険は（以下・国保）は農民が主な対象であった。当時、国民の半数は農業に従事し、農家は1930年代の世界恐慌による貧困に喘いでおり病気になる事が貧困化する最大の理由であった。こうした状況下で中国との戦争を拡大した陸軍は、健民健兵政策の一環として同法の成立を強く求めた。創設時の国保は、各市町村に設置された互助組織である組合によって運営され、市町村による組合の設置も住民の加入も当初は任意であった。ただ、島根県のように農村部が多い地域において受診する上で保険料をはじめとする経済的な障壁だけではなく、そもそも地域に医療機関が無かった事が課題であった。そこで島根県青原村（現津和野町青原）では郡部の医療を確保する為に1919年に医療利用組合が結成され病院が開設された歴史がある²⁾。

この歴史からもわかるように「互助」の考えで成り立った組合が、地域医療を支えた歴史的背景や土壌こそが島根の魅力であると筆者は考える。そして、これからの時代はこの強みを生かす為には「互助」の精神に基づいた人材育成が欠かせないと考える。そこで筆者が行なっているアプローチについて以下に記載する。

「農耕民族型アプローチ」

人材確保を考える上で筆者は大きく2パターンあると考えている^{表1)}。広いサバンナで移動しながら上質の獲物（人材）を狙う狩猟民族にその行動様式が似ているため、「狩猟民族型アプローチ」と筆者は呼んでいる。一昔前はこのようなやり方でも、医療人材は見つけられたようだが、臨床研修制度の変化や人材確保の競争激化により「獲物」はほとんど獲り尽くされてしまった。このアプローチ法では持続可能な医療を提供できない。そこで「互助」の土壌がある島根において筆者が考えるのは「農耕民族型アプローチ」である。まず一定の地に定住して畑を耕し必要な土壌をつくる。つまり、「ヒト」「カネ」「チエ」「情報」のインフラをそれぞれしっかりとつくる。そこに種まきをして、一生懸命に育てる。台風や嵐がきて、吹き飛ばされそうになっても何とか育て上げて、最終的には自立させる。僕が目指す組織の行動様式は、長期的視野に立った自給自足のサイクルを持った農耕民族のそ

表 1)

	狩猟民族型	農耕民族型
方針	広いサバンナで、移動しながら上質な獲物を狙う	一定の土地に住み、畑を耕し土壌を作る
人材	人を多く雇い、烏合の集団	人材の選別にこだわり抜く
戦略	優柔不断で方向性が定まらない	「ヒト・カネ・チエ・情報」といったインフラを整える
仕事分担	誰が何をやるのか不明確 決定の根拠がわからない その場しのぎの対応	各メンバーの特性と目標 にとって最良な配置を決める
コミュニケーション	自己中心的に喋る	まずは耳を傾ける そして本質を見抜く
育成	細々と首を突っ込み過ぎるか、忙しすぎて放置するか の両極端（或いは両方）	小さな進歩を積み重ね ているかどうか適切に対応し、 一生懸命育てる

引用情報

- 1) 島根県雲南市立病院総合診療プログラム
- 2) 『日本の医療と介護：歴史と構造、そして改革の方向性』 池上直己
2017 日本経済新聞出版社
- 3) <https://shimanegp.com/> 地域だけではない、大学だけでもない、
持続可能な成長をし続けるための総合診療ニューラルネットワーク

れと似ている。この「土壌ーインフラ」と「農業技術ー経営指導技術」の双方がしっかりとそろうと「種まきー成長ー自立」というサイクルで志の高い人材が継続的に生まれるようになる。筆者は現在これらを実践するために経営大学院での学びを生かし現場で挑戦している³⁾。

「艱難、汝を玉にす」

昔から、この日本という国においては、「艱難、汝を玉にす」という言葉が、多くの人々によって語られている。戦国武将の山中鹿之介が語ったとされる「我に、七難八苦を与え

たまえ」という言葉が伝えられてきたと考えられている。その背景には、人生における「逆境」というものを決して否定的に見ない我が国の深い精神性の文化があると考ええるが、そのさらに奥には、逆境においてこそ、深層意識を楽観的、肯定的な想念で満たす事の大切さを知る人々の叡智があったと考える。確かに「課題先進地」の島根ではあるが、歴史的遺産である「互助」を生かし農耕民族的アプローチを行えば持続可能な医療を提供できると筆者は考える。また、そのような逆境においてこそ学

びが多いとも考えている。筆者自身不勉強がゆえに多くの失敗や周囲の人達に多大な迷惑をかけてきたが、一方で同時に多くの人達に助けて頂いた。今度は、筆者が読者である皆様や島根の方にとって「逆境」も楽しめる／学びに変えられるように、「互助」の精神で貢献していきたいと考える。



自分らしい生活を支えるために、
介護医療院の看護師として思うこと

奥出雲病院介護医療院

師長 高尾 奈津子

奥出雲町は、広島県と鳥取県に県境を有し、人口約11,000人、高齢化率40%を超える中山間地域の町です。その町で唯一の入院施設である奥出雲病院は、一般病床51床、地域包括ケア病床25床、医療療養病床22床の公立病院です。現在、町内には介護老人福祉施設2施設、介護老人保健施設1施設がありますが、独居や認知症、介護者がいないなど在宅生活が困難な方の増加や高齢化に伴い医療管理の必要性が高くなってきたり、介護者も多くなっています。そのような地域の現状から奥出雲病院介護医療院は令和2年11月1日、病院再編に伴って50床の介護保険施設としてスタートしました。

介護医療院では、看護職14名、介

護職13名で日々利用者様が自分らしく心穏やかに療養生活を送っていただけ、ケアマネージャーや受け持ち担当者を中心に日々のケアや関わりの検討を重ねながら看護、介護を実践しています。看護取りの方も多いため、苦痛の軽減を図りながら、可能なかぎり最期まで入浴していただき、食べたい物を少しでもおいしく食べられることを大切にしています。現在コロナ禍の状況で、利用者様はご家族との面会も十分にできないため、日々そばにいる私達の役割は大きくなっています。受け持ち担当者が、ベッドサイドにご家族の写真を飾ったり、季節感あふれるカレンダーを飾ったりして、少しでも温かく家庭的な雰囲気となるように努めています。また、レクリエーションは、施設での生活に楽しみと季節感が感



スタッフのみなさん（筆者は前列左から3番目）

じれられ、どの利用者様にも楽しんで頂けるようにスタッフが趣向を凝らし工夫しています。利用者様それぞれに合ったやり方で、できる能力を活かすレクリエーションを行っています。普段見られない表情を表出されたり想像以上の力を発揮されたりし、私達もやりがいを感じ利用者様から逆に元気をいただいています。

当院では、コメディカル同士が常に顔の見える関係で、様々な相談に専門的な視点で即時対応してもらえ、強みがあります。今年、当院にも認知症認定看護師が誕生しました。利用者様個々に応じたアドバイスがすぐに得られ、ケアに活かしていけるようになりました。また、院内の管理栄養士、理学療法士、作業療法士は在宅訪問サービスを行っているため、介護医療院の入退所の際は、情報交換や連携がとりやすく切れ目のないサービス提供ができるメリットがあります。中規模病院の当院だからこそできることと思います。

当院の隣りには、島根リハビリテーション学院があり、現在2名の学生が来てくれています。利用者様にとっては、孫、ひ孫といった年代です。彼らがそばで話し相手や寄り添ってくれるだけで、落ち着かれ、顔なじみとなつてきて良い効果をもたらしてくれています。

今後このように介護医療院の明るく心優しいスタッフや院内、院外の人達と力を合わせて、日々のケア

を実践しながら、利用者様の個性や生き方を大切に生活を支えていきたいと思っています。また、利用者様の看護、介護を通して、私達自身の学びとしながら地域での役割を果たし、介護医療院を成長させていきたいと思っています。



七夕会 七夕飾りで楽しみました

島根県内で働いてくださる 医師を募集しています！



まずはお気軽に
お問い合わせください！



医師募集キャラクター
赤ひげ先生

- 専任スタッフ（医師）が全国どこへでも 面談に伺います。ZoomなどによるWebでの面談も実施しています
- ご希望に応じた医療機関の紹介や生活全般の相談に応じます。
- 医療機関や地域の雰囲気視察いただくツアーの希望も個別に承ります。（旅費支援あり）
- 島根県ホームページに、医師募集情報を掲載しています。

島根県医療政策課医師確保対策室

〒690-8501 島根県松江市殿町1番地

☎ 0852-22-6683

✉ akahigebank@pref.shimane.lg.jp

**SHIMANE
AKAHIGE
BANK**

赤ひげバンク で検索

編集後記

『島根の地域医療』第75号をご覧いただきありがとうございました。また、お忙しい中にもかかわらず執筆いただいた皆様、ありがとうございました。島根県 HP では、令和3年6月1日現在の医療機関の医師募集情報を掲載しています。詳しくは、

<https://www.pref.shimane.lg.jp/medical/kenko/iryo/ishikakuhotaisaku/isi-kyujin.html>

または、「島根の医師確保対策」で検索、ご覧ください。